第四回　徳島小松島港中期構想・活性化検討委員会
議事概要

日時：令和元年９月２日（月）10:00～12:00
場所：小松島市役所　４階会議室
（徳島県小松島市横須町１番１号）

１．主な議事

〇徳島小松島港中期構想（案）について
〇小松島港区活性化プラン（案）について
〇意見交換

２．主な意見

〇実現可能な整備順序を考えては如何か。
〇赤石地区に大水深の岸壁はあるが、クルーズ船とコンテナ船の同時接岸が出来ない等の問題がある。優先すべき港湾整備は見えている。
〇本プランが成功すれば、小松島市・徳島県内に対して、ある程度の経済効果が生まれる。官民一体となり、地域住民、民間企業へアプローチし、共に進めることが重要である。
〇どんなことをやるにしても、その関わっている人だけで盛り上がったのでは大変厳しい。色々な人を巻き込むことが、これから重要になってくる。
〇行政側のスケジュールを見せることで、民間企業は計画が立てられる（活動を誘発）。
〇現在、船舶大型化で荷役に支障が出ており、今後も船舶の大型化は進む。徳島小松島港が国際港湾として充実するには、赤石地区の-13m 岸壁の整備、内貿岸壁の外貿化（-7.5m⇒-10m）、内貿岸壁とコンテナ岸壁の間の岸壁整備（-10m）、背後地の埋立等の整備が必須である。
〇津田地区では、老朽化対策と早急な埋立造成が重要である。船舶の大型化が進む中で、老朽化（44 年経過）も進んでいる。今後も船が入港できるよう、堆積物の浚渫により水深を確保して欲しい。また、埋立用地に港湾機能を発揮できるものが併用されれば、地元が機能できる。
〇世界的にもコンテナの需要が高まっている。分散という事であれば、赤石地区以外にもガントリークレーンを設置するとよい。荷役設備の整備でスムーズな入港が可能となり、コンテナ船が１分、１秒でも早く荷役を終えて出港できる。
〇長期的な視点だが、小松島市を災害に強い港にしたい。10 年、20 年先になるかもしれないが、南海トラフ巨大地震等を見据えて、沖防波堤の導入も検

討しては如何か。
○赤石地区の-13m岸壁の早期完成を期待している。金磯や新港等、老朽化施設は多いが、まず赤石地区の岸壁を整備すべきである。
○地域の繁栄を考えると、内航船寄港による消費の増加に期待している。安全支援港の内航船誘致は、「情報発信」も大事であり、一例として「岸壁使用料が全国の半値」など発信力を高める方策が必要である。来訪者が増えるほど活性化に繋がる。
○運輸局では、物流・運輸業の生産性向上や効率化に向けて取り組んでいる。徳島小松島港を利用したモーダルシフトの動きも出ているので、引き続き整備局と連携していく。
○認識を共有化して、同じ問題意識・方向性を持って、関係者の方々と活性化に向けて取り組めるように、情報発信や報告説明など進めて頂きたい。
○中期構想（案）の実現に向けてはこれからが勝負である。皆さんのご意見踏まえて、徳島県と相談しながら、整備の優先順位や予算要求を進めていく。
○スケジュール感が重要なので、官民で情報が共有できるよう、上手くコミュニケーションをとって欲しい。
○多くの人に知って頂けるように本プランの概要版も作成したい。広く知ってもらい、更なる利用や投資が検討されることを期待している。
○赤石地区の整備を国に対して政策提言している。本プランを国と県と市の協働で作ったことは大きな意味がある。ツールとして活用し、要望していく。
○アクセスに関しては、津田地区まで四国横断自動車道が整備されることで大きく変わる。実感してもらえるよう支援していく。
○賑わい・観光に関しては、クルーズ需要 500 万人という国策のもと、徳島小松島港では過去最多の 2 万人を超える見込みである。更に、2025 年大阪万博に向けた新規事業として、新たな海上交通ネットワークの導入も進めている。
○県として、各機関と連携して進めていく。
○本プランを持ち帰り、徳島市として出来ることを検討したい。特に、人材発掘、持続可能な仕組みのフォローを考えていきたい。
○各港区の強みを企業誘致するセールスポイントに活用したい。
○高速道路がこれから整備される。港と IC の連結が重要となる。
○イベントやまちづくりに携わってきた。その中で、民間ＮＰＯの取組を如何に支援するか、持続可能な組織づくり「まちづくり協議会」が重要となる。行政が支援できる体制を作りたいと考えている。
○中期構想と活性化プランの整合について、「賑わい・観光」に着目して強化するなど、一言加えるとより分かりやすい。
○Ｐ.43、45 が本構想のまとめになる。これを県民・市民に向けて、意思表

示することが次のステップではないか。ぜひ検討して欲しい。

○ＰＤＣＡを実行していく中で目標設定できる場があるとよい。ハード整備をコツコツ進めながら、20 年・40 年先の形を示して、情報発信すれば、民間企業や市民の中からやる気のある人・魅力ある人が集まってくる。最近、やる気のある人がやりたいことをやらせてくれる地方に飛んでくる傾向がある。

３．まとめ

○ここ 10 年は、官民がお互いを信頼して情報交流する場がうまく機能していなかった。今後も話し合いの場を継続し、風通しを良くすることで、方向性や出来ることを共有し、本プランを「チェック⇔実行」する体制を整えられるとよい。

○NPO に全て任せてしまうと情報が回らない。マスコミや関係メディアを入れるというのも手法である。

○活性化プランは、今まで協議会が機能していなかったが、再び活性化しようということである。中期構想においても、同様に情報交換できる場があるとよい。それぞれの役割にしたがって、それぞれが寄与出来そうなことについてご提案して頂き進めていくことが重要である。また、この事自体の情報発信も進めて頂きたい。

○2 点お願いしたい。本プランを「表に出す」こと、計画を進めるための「場づくり」を検討して頂きたい。

以上